



バイオ関連事業

BIOTECHNOLOGY-RELATED

バイオ関連事業を取り巻く事業環境

人々の寿命の長期化や健康への意識の高まりを受け、ヘルスケアやバイオ関連事業への関心は年々高まっていますが、バイオ関連事業は研究開発に長期間を要する上、想定していた薬効を得られない等で事業リスクが非常に大きいものです。そうした中、SBIグループでは様々な疾患への治療に適用が見込まれる

5-アミノレブリン酸(ALA)を使った医薬品をはじめ、健康食品や化粧品等の研究・開発および製造に今後は経営資源を集中させることで、中長期的な観点からセグメント全体の収益化に向けて着実に取り組んでいます。

主要企業

中間持株会社：SBI ALApharma

SBIファーマ
SBIアラプロモ
photonamic(フotonミック社)
NX Development
SBI ALApharma Canada
Photonics Healthcare
SBIバイオテック
Quark Pharmaceuticals(クォーク社)

バイオ関連事業の連結税引前利益(IFRS) (百万円)

	2019年3月期	2020年3月期
SBIバイオテック	△166	16
クォーク社	△8,193	△7,668
A L A 関 連	SBIファーマ	△1,395
	SBIアラプロモ	263
	フotonミック社	412
		△1,272
		193
		173

2020年3月期の主な取り組み・今後の重点戦略

➤ SBIバイオテック

- 自己免疫疾患治療薬「SBI-3150」の独占的ライセンス契約を旭化成ファーマ(株)と締結し、導出済みパイプラインは計4本に
- 導出済みパイプラインの開発も順調に進展しており、通期業績の黒字化維持が期待される
- 今後は癌免疫治療薬の開発に経営資源をシフトし、早期における技術導出を図る

➤ クォーク社

- フェーズⅢの最終段階にある急性腎不全(AKI)予防薬の臨床試験費用等を中心に研究開発費用を引き続き計上
- 新CEOのもとで人員削減を含めた費用削減を強力に推進し、2020年3月期に計上した約75億円の費用を2021年3月期は6割程度まで削減予定
- 今後は、創薬パイプラインの臨床試験結果等を踏まえ、同社の売却等を予定

➤ ALA関連事業

- フotonミック社はカナダのMolecuLight Inc.より腫瘍領域の事業を買収し、光線力学的診断薬の乳がん領域への適応を推進
- SBIアラプロモでは新たな機能性表示食品の開発を加速しており、2021年3月期中に「発芽玄米の底力」の機能性表示食品としてのリニューアルに加え、うつ・気分の改善に向けた商品や、糖分の吸収抑制や代謝向上に向けALAとサラシノールを組み合わせた商品等、多数の機能性表示食品の届出を行う予定

ALA配合の商品紹介

医療用医薬品



アラグリオ®
顆粒剤分包1.5g

健康食品・化粧品等



アラプラス
糖ダウン



アラプラス
深い眠り



アラプラス
からだアクティブ



アラプラス
ゴールド



アラプラス
からだシェイプ



アラプラス
スキンケアシリーズ